

今月の御教え

これまでは懐妊中の事柄を教えた者がなかったため、種々のことに迷っている。人間は何のおかげでできるのか。母の胎内に宿り、妊娠したというのは、神が御霊を授けてくださった時である。この御霊は、医師が腹を開いて、これが御霊であると言って人に見せることはできない。人間の目に見えない神から、肉眼で見ることのできない御霊をお授けくださるということは、ありがたいことである。人間の肉体は、母親が好きなものを食べ、血の増えるのをもとにして、一人の体が造られ、十月前後で出産して、男子である、女子であると言う。懐妊中、神のお恵みでお造りくださるのである。

……「天地は語る」第四十六条……

解説

金光大神様は「人間がどうしてこの世に生まれることが出来たのか？」との問いに「それは、母の胎内に神様が御霊を授けて下さるから胎児が宿り、母親の摂取する食物により血が増え身体が造られ、十月前後でこの世に生まれ出ることが出来る」と、み教え下されたのであります。だが、現代のいわゆる「科学的」との文言が絶対的真理の如く教えられ刷り込まれてきた私達に、このご神伝をそのまま頂き切れることが出来るでしょうか？それは容易なことではないでしょう。しかし、この御教えは、出産に関しても、二十世紀も半ばになってやっと解明された数々の医学的知見を、既に、さかのぼる事、百年も前に知って教えて下さっていたほどご神徳の高い教祖金光大神様のお伝えであります。故に、私達は、この御教えが心に響いてくるような信心のお蔭を頂けるように日々稽古に勤しみたいと思います。